

平成26年度教育研究活動報告書

氏名	藤本真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	講師
専門分野	日本語学（古典）		
Ⅰ 教育活動			
本年度担当科目			
学部	日本語史 日本語学基礎演習 古典語学専門演習 卒業論文（構想・準備）（制作） 日本語学講義1（古典語） 日本語学講義3（古典語）		
Ⅱ 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
（1）〈著書〉『〈役割語〉小辞典』（編者 金水敏）、共著、研究社、執筆分担任当、平成26年9月			
（2）〈論文〉「古代語の力（ア）系列指示詞」再考 『日本語文法』9巻2号、くろしお出版、平成21年9月			
（3）〈論文〉「一レ形指示詞の歴史的考察—源氏物語を中心に—」 『KLS Proceedings』30、関西言語学会、平成22年6月			
（4）〈論文〉「古代語のソ系列—観念指示の検討を中心に—」 『詞林』第54号、大阪大学古代中世文学会、平成25年10月			
（5）〈学会発表〉「中古語の力（ア）系列とソ系列—観念指示用法の推移—」 日本語学会、東京学芸大学、平成20年5月			
本年度を含む過去3年間の研究業績			
（1）〈著書〉『〈役割語〉小辞典』（編者 金水敏）、共著、研究社、執筆分担任当、平成26年9月			
（2）〈論文〉「仮想現実の設定とソ系列指示詞—古代日本語を中心に—」 『甲南女子大学研究紀要』第49号 文学・文化編、平成25年3月			
（3）〈論文〉「古代語のソ系列—観念指示の検討を中心に—」 『詞林』第54号、大阪大学古代中世文学会、平成25年10月			
（4）〈論文〉「もの言う動物—キャラクターとしての動物のイメージ—」 『語文』第103輯、共著（岩田美穂・藤本真理子）、大阪大学国語国文学会、平成26年12月			
（5）〈学会発表〉「そこはどこ—指示について—」 第1部尾道市立大学日本文学会大会（おのみち文学三昧）、平成26年12月			
（1）指示詞			
（2）文法			
（3）役割語			
研究テーマの進捗状況	<p>（1）指示詞は本年度、調査と簡易報告を行った。来年度、研究活動スタート支援の締めくくりの年として発表および論文化する。</p> <p>（2）は本年度、（1）と関連させながら、人間文化研究機構連携研究において、報告書を作成した。また、富山方言および鹿児島方言の丁寧語と丁寧語の歴史的変化とを比較した研究を進めている。その成果の一部を現在教科書の一部として執筆中である。</p> <p>（3）は本年度、『〈役割語〉小辞典』を出版し、また新たに動物の役割語についても検討を加え、論文を報告した。理論的な方向と実証研究をさらに進めるため、資料を集めているところである。</p>		
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績）			
所属学会・所属団体 役職等			
日本語学会（庶務委員：平成24年5月～平成25年4月） 関西言語学会 日本語文法学会（総務委員：平成22年4月～平成24年3月） 土曜ことばの会（事務局員：平成24年3月～現在に至る）			